

高知市市民活動サポートセンター季刊誌

えぬびい! Oh!

2019 冬
Vol. 73

▶ 2P
心に残るガイドのために
～観光ガイド全体研修交流会～

▶ 3P
国際ふれあい広場 2019 開催報告
～高知にいながら「世界」を身近に～

▶ 4～5P
社会を変える市民のチカラ
～支え合いともに歩んだ20年～

▶ 6～7P
高知で続くこどものまち
～とさつ子タウン2019～



心に残るガイドのために

観光ガイド全体研修交流会

今回は9月13日に行われた観光ガイド全体研修交流会の取材に行ってきました。この研修交流会は県内の観光ガイド団体の連携とガイド技術の向上・習得を目的に行われています。第一部では映画監督安藤桃子さんのトークイベント、第二部では分科会が行われました。

研修会を実施した高知県観光ガイド連絡協議会は、観光ガイド団体の連携・情報交換を図ることでガイド技術の向上を目指し、高知県の観光振興と地域の活性化に貢献することを目的としています。



▲会場の様子

■トークイベント

会場には沢山の人が溢れており取材目的の人や地域のTシャツを着ているガイド団体の方がいました。17のガイド団体、全体で約130名の方が参加しました。映画監督であり高知県在住の安藤

さんは高知県の魅力や「カーニバル003 高知」の開催のについて快活に話されていました。皆さん安藤さんの話に引き込まれ楽しく聞いていました。

東京から移住してきた安藤さんの高知への見解は意識したことが無かったので新鮮で高知の新たな魅力を感じられました。



▲安藤さんのトークイベント

■観光客の満足度を向上させるために

休憩のあと椅子を円形にして分科会が行われました。第二部の参加

者はあらかじめ1グループ19人の6グループに分かれ、揃ったグループから自己紹介が始まっています。ガイドの方たちは主に定年を迎えられた人や高知に



▲第二部地域別分科会の様子

帰ってきた若い女性などで構成されており皆さんのガイド歴も様々でした。

初めは安藤さんの話を受けてどう感じたか意見交換が行われており、皆さん話に感銘を受けた様子で、どうしたら高知を盛り上げていけるだろうかという方向に話は進みました。

他にも、リピーターをどう増やすか、後継者の育成をどうするかなど、団体の悩みを共有していました。また、市町村と連携をとることのメリットや外国人へのガイドの仕方の話が上がっており、総括して様々な意見が出ました。

皆さん真剣に話し合いに参加しており、時には白熱している様子も見受けられました。

今回、安藤さんのお話を聞いて自分の中で新たな発見があり面白かったです。また普段観光地に出向いた時何気なく案内してもらっているガイドさんたちがどんなに努力をしどんなことで悩んでいるかなども知ることができたため、勉強にもなりました。

(国際デザイン・ビューティカレッジ)

マンガ科 もつり)



高知県観光ガイド連絡協議会事務局
〒780-0901 高知県高知市上町2丁目6-33
龍馬の生まれたまち記念館内
TEL: 080-2980-5504

国際ふれあい広場 2019 開催報告

高知にいながら「世界」を身近に

寄稿：(公財) 高知県国際交流協会 シニアスタッフ ^{あや}光井 綾

最近、高知にも国際化の波が押し寄せているのか外国の方を見かけることが多くなりました。

2019年10月6日、高知市のひろめ市場や大橋通りで開催された「国際ふれあい広場2019」について、主催している(公財)高知県国際交流協会シニアスタッフの光井綾さんに寄稿していただきました。(のむ)

■「世界」を身近に

このイベントは当協会が毎年主催し今年で15回目です。今年のテーマは在住外国人との交流を通して高知にいながらにして世界の文化を体感する機会を作ること、またSDG(国連が定める持続可能な開発目標)に親んでもらうことを掲げ開催しました。

■見て・話して・食べて、楽しむ!

今年は26団体がワークショップブース出展やパフォーマーとして参画し、例えばアフリカダンス、ニャンデウティ(パラグアイの刺繍)の塗り絵、フェアトレード・ハラルル品販売、外国人向け茶道・書道など、日本人も外国人も、子どもも大人も一緒に体験づくりできるものが充実し、当日は子どもの姿もたくさんありにぎやかでした。

◀好きな漢字を書いてオリジナル団扇作り



▲ニャンデウティの塗り絵ではがき作り

■外国人コミュニティも参画

今年から、在高知インドネシア人会・スゴニ「The Engano」等の外国人グループも、国の料理販売や伝統舞踊等の得意分野を生かし一緒にイベントを作り上げました。フィナーレは約15か国の外国人が出演する民族衣装のショーと正調よさこい囃子踊り。会場のひろめ市場の前で輪になって踊り、よさこいのエネルギーは言語や文化を超えることを実感!



▲民族衣装ショー

■多文化共生

高知県も全国と同様に、在住外国人が増えている今、「国際交流」から「多文化共生」の時代に移り変わるうしています。今回のイベントでできた繋がりを大切に、今後も国際交流団体や外国人コミュニティの力を借りながら、共に交わり合う場を作りたいと思っています。

問い合わせ：(公財) 高知県国際交流協会
高知市本町本町 4-1-37-2F
TEL: 088-875-0022



▶「囃子両手によう踊る〜」



社会を変える市民のチカラ

支え合いともに歩んだ20年

高知市市民活動サポートセンター（以下サポセンに略）と認定特定非営利活動法人NPO高知市民会議（以下市民会議に略）の設立20周年セレモニーを、10月14日体育の日に、高知市文化プラザかるぼーと大講義室で開催しました。当日は、パネルディスカッション、ランチセッション、ワールドカフェなど長丁場ではありませんでしたが大変有意義な時間を過ごすことができました。



誕生から今日まで



◀岡崎誠也高知市長の祝辞

市民会議が産声をあげたのが1999年1月。同年4月には、市民が行う自由で営利を目的としない社会貢献活動（市民活動）を支援する目的で、サポセンを高知市が開設、市民会議が運営してきました。2006年からは指定管理者として、会議室や備品の貸し出し、市民活動に関する相談業務のほか「自分の得意分野を社会に生かしたい」

「ボランティアに参加したい」「仲間を集めて社会活動をしたい」「なにか社会貢献をしてみたい」などの個人や団体の活動を支援するさまざまな活動を行っています。

■サポセンと市民会議の20年を振り返る

オープニングトークでは、コーディネーターの山崎水紀夫さん（2代目理事長）、パネラーには、山崎一寛さん（初代理事長）、高島田正さん（高知市役所元担当課長）、田中佐和子さん（前事務局長・現専務理事）と浦井理恵（現理事長）が登場。サポセンの設立準備会から始まった市民会議の設立当時のオモイやエピソードを聞かせていただきました。

毎日毎晩、仕事そつちのけで設立準備をしていた話や社会の課題を探し自ら解決する、自立した市民を育てる民主主義の学校を目指していた話を聞くことで、あらためて20周年の歴史を感じました。



▲オープニングトーク

■とさつ子タウンの10年を振り返る

コーディネーターは、島中洋行さん（元事務局長）、パネラーに、片岡優斗さん（2代目市長）、田部未空さん（元市民・こどものまち主催者）、廣井綾乃さん（初代実行委員長、杉本沙栄子さん（現実行委員長）、専門家を代表して岡田一水さん（高知銀行）、そして尾崎昭仁さん（現事務局）が登場。最初に、島中さんよりこどもが運営するまち「とさつ子タウン」の紹介がありました。その中で、まずは10年やってみようと思いましたが、トした話が印象に残りました。

学生時代、担任の先生やお母さんに言われて当日ボランティアに参加し、楽しかったから実行委員会のメンバーになり、実行委員長になった経緯や市民会議に就職した話を聞き、もともとと高知を好きになって高知で働きたいと思うこども達が増えるといいなあと思いました。



▲とさつ子タウン紹介の様子



※公益信託高知市まちづくりファンドは、市民の皆さんのまちづくり活動を支援するための助成事業です。寄付に関するお問い合わせ・申込み(株)四国銀行 個人サポート部 信託担当まで。TEL: 088-871-2337 (直通)

■高知市まちづくりファンドのこれから
コーディネーターは、増田和剛かずたかさん(運営委員長)、パネラーに堀洋子のりこさん(副委員長)と委員の四宮成晴なるはるさん、田中希和きわさん、中平大輔だいすけさんが登壇。今年で17年目を迎え174事業に助成金が支払われました。
『まちづくりファンドをどれだけの人が知っているだろうか?』『このままだと、いずれは資金がなくなってしまう』といった問題点や、『こうちこどもファンド』を経験したこどもが大人になって『まちづくりファンド』の運営に関わってもらえたらいいね』との意見も出ました。
まちづくりファンドは、寄付を募っています。少しでも長く市民のまちづくり活動に活かせられるよう、皆様からのあたたかいご支援をお願いします。



※ワールドカフェとはカフェのようなリラックスした雰囲気、テーマについて少人数で話し合い、他のテーブルとメンバーをシャッフルしながら話を発展させていく話し合いの手法のこと。

■ランチセッション
「わたしの取り組みPRタイム」
昼食時には、参加者の中から自分の取り組みをPRしたい人を募ったところ、7団体が手を上げ、それぞれの活動や上映会などのPRを行いました。
■ワールドカフェ
「サポートセンターの役割」や「ファンドレイジングプロジェクト」、「ボランティア」、「NPOの広報」など9つのテーマに分かれて、より良い活動にするアイデアや新たな事業の展開などをグループで話し合いました。今まで詳しく知らなかった事業について知る機会にもなり、皆さん真剣に話を聞き、意見を出し合い、楽しそうに参加していたのが印象的でした。

■感想
市民会議は、NPOのパイオニアとして、先人たちのオモイを次の世代に引き継いでいくことも大切な役目だと実感した1日でした。今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

(浦井理恵)



▲設立20周年記念ラベル

■大交流会
タンドルトーブルで行われた大交流会では、土佐志民大学の「土佐酒醸造コース」にて土佐酒づくりを学ぶ講座があり、香美市にある松尾酒造さんの協力のもと実際に酒造りを体験し完成した日本酒が、乾杯時にお披露目となりました。また、お楽しみ抽選会で10名の方にプレゼントしました。

■川柳&写真コンテスト表彰式
20周年を記念して募集した「ボランティア」や「NPO」をテーマにした川柳には138作品、高知県内で活躍する団体の活動写真は38作品の応募がありました。5月の総会にて会員の投票で選ばれたグランプリ(各1)と優秀賞(各2)の表彰式を行いました。



▲川柳&写真コンテスト入賞作品

高知で続くこどものまち

とさっ子タウン 2019

8月17・18日に高知市文化プラザから
ぼーとにて、とさっ子タウン2019が開
催されました。とさっ子タウンとは、小学
四年生から中学三年生を対象にしたこども
のまちです。参加するこどもたちは「市民」
として、お仕事体験や実社会と同様に税金
を納めることや選挙に行くこと、また稼い
だお金（とさっ子タウンの通貨の単位は
トス）で食べたり遊んだりすることがで
きます。私は高校一年生の頃からスタッフ
として運営に携わり、今年も実行委員会の
委員長を務めました。この取り組みは
2009年から毎年行われ今年で11年目を
迎えます。そのため、よりたくさんの方
にとさっ子タウンについて知っていただき
たく記事を書きました。

■お仕事体験

市民が体験するお仕事は、それを本業にしてい
る大人の「専門家さん」に教えてもらいます。
看護師ブースでは本当の看護師の方々に血圧の
測り方を習い、医師ブースでは実際の練習に使用
されている模型や道具を使ってカテーテル手術体
験を行っていました。さらに起業することも可能
です。基本的にどんなお店をしてもかまいません。
自分の好きなものや得意なことを活かしたお店が
たくさんあります。自分たちで作ったアクセサ
リーを持ち込みグループで仲良く販売している市
民もいました。このようにお仕事体験も全力で行
えます。

■建築デザインコンペ

とさっ子タウンでは建築士のお仕事のひとつ
として建築デザインコンペに参加することができ
ます。毎年題材となる建物が決められており、
10名ほどの市民が工夫を凝らし作品を作ります。
それらの作品は市民の投票によって最優秀賞が
決められ、さらにその作品は高知県建築士会の
方々によって翌年のまちに実際に建てられます。
昨年は時計台が題材となったため、今年のまち
にはとさっ子タウンのキャラクター「しばてん」
をイメージした時計台が建設されました。来年
は放送局ブースがリニューアルされます。この
建築デザインコンペの、市民のこどもたちの考
えが大人の力を借りて実現されるというシステ
ムはとてもとさっ子タウンらしいですね。



▲市民が自ら出店したスライム屋・アクセサリー屋

■とさっ子タウン議会

とさっ子タウンには議会があります。議会を構
成する市長・副市長・議員は選挙で選出されま
す。この議会はとさっ子タウン開催中にありま
す。また開催期間外でも議会は開かれ年間を通し
て活動しています。議会では、まちをさらに良
くすることを目的に話し合っています。特に今年
は市長選のマンニフェストである賞金と税率の上
昇について、またそれに伴う物価の変動について
よく話し合いました。物価や税率という複雑な話
を小学生・中学生の議員のみなさんがとても熱
心に話し合っていました。その反面、議会以外
ではとても明るく楽しい4人組で、タウン内
でお揃いのプレスレットを買って私にも自
慢してくれました。



▲しばてん（写真中央）が司会をする議会の様子



▲今年建てられた
しばてんモチーフの時計台

■ こどものまち

とさつ子タウンはこどものまちです。その主役は市民のこどもたちです。毎年市民のみんなはおもしろいものをたくさん見せてくれます。「電車の写真を撮らせて」と声をかけると運転手さんだけでなく乗車しているお客さんまでポーズをとってくれました。また「家族にお土産が買えることが嬉しい」と言い両手に持ちきれないほどの野菜やお菓子を買いつ子もいました。昨年まではスタッフのお兄さんお姉さんにいたずらをしていたのに、今年は毎年とさつ子タウンが開催されることへのお礼を言ってきたりしてくれるような子もいました。とさつ子タウンでは成長も挫折も成功も失敗も色んなことが経験できるでしょう。このように、とさつ子タウンは学校とも家庭とも全く異なるコミュニティです。

今年のとさつ子タウンには352名のこどもたちが参加し、189名のスタッフと146名の専門家さんがこの取り組みに携わってくださいました。年々ご協力してくださる企業・団体・個人は増えています。とさつ子タウンという取り組みが高知でどんどん賛同を得て広まっているということでしょう。

このように高知のこどもたちのことを考えている方が多くいらつしやることやそんな特別でおもしろい場所が11年も続いていることが嬉しく誇らしく思います。とさつ子タウンが20年30年と続いていけるように、来年からもさらに良い取り組みにしていきたいです。

(高知大学 二回生 杉本沙栄子)



▲とさつ子タウン2019に参加したスタッフ
(オレンジのTシャツを着た人たちは実行委員)



▲名物のとさつ子タウン電鉄 (子電)



【問い合わせ先】

とさつ子タウン事務局 (高知市市民活動サポートセンター)
電話：088-820-1540 URL：https://tosacco-town.com/



まちがいさがし

5つまちがいがあるよ!さがしてみてね!



答えは高知市市民活動サポートセンターのホームページに掲載中。
URL : <http://www.kochi-saposen.net/>

#編集スタッフの

つぶやき

発行 高知市市民活動サポートセンター
企画編集 認定特定非営利活動法人
NPO高知市民会議 広報部会

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
月～金/10:00～21:00 土/10:00～18:00(日・祝日は休み)

TEL : 088-820-1540 FAX : 088-820-1665

E-Mail : info@siminkaigi.org

WEB : <http://www.kochi-saposen.net/>

この冊子は再生紙を使用しています



@有光

大学最後の夏休みが終わり、いよいよ本腰入れて卒論に取り組みようと思っています。その他の取り組みも後悔のないようにしていきたいです。



@森岡

出張で異常気象に振り回されっぱなし。直ぐ運行中止。天候回復でも機材繰りで欠航。環境NPOの地球温暖化防止の声にいたく共感。



@横田

ご飯を食べると眠くなる、食べないとボーっとする。適度な食事が日によって変わるから未だに自分の体の「ぼっち」がよくわからない。



@おおの

NPO高知市民会議20周年おめでとうございます! 広報部会に参加し始めて早くも10年。これからも緩やかにお世話になります😊



@しのみや

11月になり、すっかり冬の気配を。ところで近年、過ごしやすい春秋シーズンが短くなってきているような気がする。



@半田

2020年まであと1ヶ月。1年のスピードがはやく感じるようになりました。2020年は何か特別な年になるような気がしています。



@みやわき

近ごろの楽しみは、寝る前の読書。長年の積読本を片付けています。30ページも読み進めるととうとうとくるので、よき睡眠導入剤に。